



おもすの森

発行
大本山 本門寺 根源
山 務庁
富士宮市北山4965
電話 0544-58-1004

教主釈尊の出世の本懐は 人の振舞にて候けるぞ

世界中で戦争が止まないこと、またその中に宗教戦争が含まれていることを、まことに残念に思います。

宗教の中には原理主義という立場があり、自らの正当性を主張するあまり、排他的、独善的な考え方を持つ人が存在します。布教の為には他者の生命を奪ってもかまわないという立場もあります。冷静に考えれば、そのような立場は「おかしい」のですが、自らの誤りに気付かなくさせる危険性を宗教は有するというものでしょう。

ところで、日蓮大聖人は四条金吾という信者に宛てられた御手紙に、つぎのように記されています。

一代の肝心は法華経、法華経の修行の肝心は不軽品にて候なり。不軽菩薩の人を敬しはいかなる事ぞ。教主釈尊の出世の本懐は人の振

舞にて候けるぞ。穴賢穴賢。賢きを人と云、はかなきを畜といふ。

すなわち、日蓮大聖人は不軽菩薩（ふきょうぼさつ）の如く「但行礼拝（たんぎょうらいはい）」を行動の規範とされていたことが窺えます。そして、教主釈尊の出世の本懐は「人の振舞」であると説かれています。

周知の通り、日蓮大聖人は諸宗を激しく批判されました。けれども、その根底には他者を敬う心が存していたことを忘れてはなりません。

いかに教えが高邁であったとしても「人の振舞」が粗暴であったならば、かえって教えに傷を付けることになりましょう。当山に信仰を寄せる皆様は、そのことに注意していただければ幸いです。

（布教伝道部長 佐野湛要）



五月晴れの塔中と参道

御案内

御大事御本尊会

日時 令和六年七月二十四日
土用丑の日 午前十時

場所 本門寺根源 本堂

疫病退散のいわれのある霊験あらたかな御大事御本尊を御開帳し、襦袢い（しきみはらい）にて皆様の身体健全・無病息災を御祈念致します。年に一度の奉奠ですので、お誘い合せの上ご参詣下さい。



「身代り守り」頒布

御大事御本尊御守

御霊宝疫病退散の「御大事御本尊」を複写し、身代わり守りとして特別に頒布しております。

皆様の菩提寺である末寺寺院が窓口でございますが、郵送でも承っておりますので、ご要望の方はご連絡ください。電話〇五四四一五八一〇〇四

御霊宝御風入会

当山は四月十三日、年中行事である御霊宝御風入会を奉修しました。御霊宝の中から十一、点、埼玉県本法寺所蔵から二点当日奉奠し、厳修致しました。

御霊宝は、当日御宝蔵より鈴木春雄執事長、石川由緒家(本年鍵番・石川貴久氏)方々によって運び出され、本堂御宝前へと厳かに奉奠されました。

当日は御風入日和のなか、司判・役員、檀信徒の他、山梨四部団参加わせて約二百名の皆様が参拝さ



御宝蔵前にて御霊宝を運び出す、鈴木執事長、石川由緒家によって開扉される。

法要後、佐野布教伝道部長より奉奠目録に沿って、御霊宝一点ずつに丁寧な解説がなされました。特に本年特別奉奠されたのは、宗祖直筆本尊の一つである鉄砲御本尊でございます。この御本尊は、昨年「世界かんがい施設遺産」に登録され、水力発電にも利用され、当山に関する本門寺堀(通称北山用水)と大変所縁が深いという解説に、参詣者の面々は時折頷いたり、皆真剣に耳を傾けていらつしやいました。解説



れ、御霊宝の数々をご覧になられませんでした。法要の中で旭貍下は「疫病も下火なった今日、再び大勢の皆様とお唱えする御題目は大

後、お経が転読される中、参詣者は数々の御霊宝を拝観し、鉄砲御本尊の前では多くの方がじっくりとその目に焼き付けていました。

御霊宝御風入会は毎年4月13日。奉奠される御霊宝は毎年入れ替わります。本年の奉奠目録をご希望の方は寺務所へお問い合わせください。

奉奠目録の掲載

- 一. 日蓮大聖人 生御影尊
 - 二. 日蓮大聖人 御所持太刀
 - 三. 日興上人 御所持太刀
 - 四. 日蓮大聖人御筆 漫茶羅本尊
 - 五. 日蓮大聖人御筆 漫茶羅本尊
 - 六. 日興上人御筆 漫茶羅本尊
 - 七. 日興上人御筆 漫茶羅本尊
 - 八. 日興上人御筆 漫茶羅本尊
 - 九. 要法寺十三世 日辰上人御筆 漫茶羅本尊
 - 十. 日健上人御筆 漫茶羅本尊
 - 十一. 日健上人御筆 漫茶羅本尊
 - 十二. 日守上人御筆 漫茶羅本尊
 - 十三. 学優写本 六人立義廢立私下
- ※八と九は埼玉本法寺様所蔵



熱心に御霊宝を拝観する皆様



ご挨拶される旭貍下



山梨4部団参の皆様

法華經に学ぶ 第二十二回

布教伝道部 浦野 弘正

法華經の対告衆と声聞衆

「有学」と「無学」

学ぶべきものが残っている状態を「学」または「有学」、学ぶべきものが無くなった状態を「無学」といいます。通常私たちが「学がある」「無学である」という場合、前者は高学歴でよく勉強している人のことをいい、後者は、勉強していない人、もしくはは知識のない人、という意味でこの言葉を使います。が、仏教でこの「学」「無学」という言葉が使われた時、意味合いは逆になります。

阿羅漢の修行者達の状態

法華經の会座に集まった阿羅漢たちは、全ての欲望を断ち切って煩惱から解放され、自己を完成させて、全ての執着から離れ、完全に心を自制することのできる状態になりました。その方々のお名前がこのあと挙げられていきま

まず名前が挙がるのは、お釈迦様のご在世の時のお弟子方です。方便品で繰り返しお名前が出てくる舍利弗さま、お盆の起源となった目連さまをはじめ、十大弟子といわれるお弟子方など二十一人で、阿羅漢の位に達した人たちです。それぞれの簡単な説明を下の表に示しました。その他、先ほど説明した「学・無学」のお弟子方が二千人、お釈迦様の叔母で、乳母であった摩訶波闍波提(マハープラジャーパティ)さまは、女性の出家者として、六千人のお供を連れてに会座にいました。また、お釈迦様が出家される前のお后で、羅睺羅(ラーフラ)尊者の母でもある耶輸陀羅(ヤショーダラー)さまもまた、女性の出家者として、お供を連れてその会座にありました。

(続く)

表 【序品に登場する声聞の一覧】

阿若橋陳如	あにゃきょうじんによ	お釈迦様が共に修行した「五比丘」の1人。
摩訶迦葉	まかかしょう	頭陀第一とも呼ばれ、仏教第二祖といわれる。
優樓頻螺迦葉	うるびんらかしょう	拜火教祖であったが、お釈迦様に教化され弟子入り。
伽耶迦葉	がやかしょう	優樓頻螺迦葉の末弟で、兄と共にお釈迦様に帰依した。
那提迦葉	なだいかしょう	兄・弟、250人の弟子と共にお釈迦様に帰依した。
舍利弗	しゃりほつ	一番優秀であったが、お釈迦様より先に亡くなる。
大目犍連	だいまっけんれん	舍利弗の親友で、ともにお釈迦様に帰依した。
摩訶迦旃延	まかかせんねん	仕えていた王の命でお釈迦様を招くために出家した。
阿菟楼駄	あぬるだ	不眠により失明したが、天眼を得たといわれる。
劫賓那	こうひんな	二十八宿中の「房星」から名前が付いた。
憍梵波提	きょうぼんはだい	舍利弗尊者の弟子で、牛相比丘とも呼ばれた。
離婆多	りはた	舍利弗尊者の弟とされている。
畢陵伽婆蹉	ひつりょうかばしゃ	バラモン出身で隠身呪術により名声を得ていた。
薄拘羅	はくら	160歳で亡くなったため、長寿第一とも呼ばれる。
摩訶拘絺羅	まかくちら	舍利弗の外叔父で、舍利弗の後に仏弟子となった。
難陀	なんだ	摩訶波闍波提比丘尼の子でお釈迦様の異母弟。
孫陀羅難陀	そんだらなんだ	お釈迦様の異母弟。お釈迦様が覺りを得たので出家。
富樓那弥多羅尼子	ふるなみたらし	略称「富樓那」、十大弟子の最古参。説法第一。
須菩提	しゅぼだい	「空の教え」を良く理解したため解空第一。
阿難	あなん	お釈迦様の従弟で、侍者として教えを一番聞いた。
羅睺羅	らごら	お釈迦様の子。人知れず修行を積んだ。

『本門要軌』を読む 第二十一回
布教伝道部執事 阿部 和正

『御義口伝』は、巻上と巻下の二巻で、巻上の巻頭に「南無妙法蓮華經」、続いて「二百三十一箇條大事」が巻上と巻下に渡ります。巻下の巻末に別傳として、「廿八品一文充大事」、続いて「廿八品悉南無妙法蓮華經事」の順で構成されております。（『御義口伝』定本二五九七―二六〇四頁）

『本門要軌』で讚歎として用いる文は、「廿八品悉南無妙法蓮華經事」の「一勸發品」の結び（定本二七二七頁）に当たります。「廿八品悉南無妙法蓮華經事」は、他項が各品の大事な經文を箇条し教説するのに対し、当項は各品の要点を教説した内容となっており、但しいずれの項も、南無妙法蓮華經の七字に帰結する旨を教示されております。又、勸發品（『普賢菩薩勸發品第二十八』）は、法華經廿八品の最終章で、「再演法華」（『御義口伝』定本二七二六頁）と称され、法華經説法が終る時、普賢菩薩が娑婆世界に到り、佛滅後に於て法華經の教えを得る法を願ひ、佛が再度「※四法成就」（一、諸仏護念・諸仏に護られて信じて、二、植諸徳本・諸々の徳を積むこと、三、入正定聚・仏と成る事を決心する。四、發救一切衆生・一切衆

生を救う心を起こすこと。）法華經を四つの要点に纏めて説法したものです。『御義口伝』中に於ても、經文同様に最終の結文にあたり、肝心要の要文となります。

本文の解説に入ります。品品とは法華經廿八品、各品の初めには妙法蓮華經の五字を題し、各品の經説も妙法蓮華經の五字に帰結して終わります。品の經説の前後・中間も、帰結する処は南無妙法蓮華經の七字である。つまりは廿八品全体に序品、勸發品まで、妙法蓮華經の五字に初まり五字に結する。廿八品中の各品が南無妙法蓮華經の七字に帰結しているという事です。これは「廿八品悉南無妙法蓮華經事」の題号にも付随します。末法弘通の要法は唯此の一段に之有る也。南無妙法蓮華經の五字七字。此等の心を失い要法に結ばずは不足の者也。日蓮が本意を失う可し。日蓮が弟子且那別の才覺無益也と厳しく諫められております。これ等の文は「廿八品悉南無妙法蓮華經事」の開文に付随してあります。初めに「疏ノ十二云ク、惣シテ一經ヲ結スルニ唯タ四ノミ。其ノ樞柄ヲ撮テ之ヲ授與ス。」（定本二七一五頁）と天台大師『法華文句第十』の結要付嘱の文を掲げます。次に具体的に「御義口伝ニ云ク、一經トハ本迹廿八品也。唯タ四トハ名用體宗ノ四也。樞柄トハ唯題目ノ五字也。授與トハ上行菩薩ニ授與スル也。之トハ妙法蓮華經也云云。此ノ

釋分明也。今日蓮等之弘通ノ南無妙法蓮華經ハ體也。心也。廿八品ハ用也。廿八品ハ助行也。題目ハ正行也。正行ニ助行ヲ攝スベキ也云云。」（定本二七一五頁）と説示され、法華經廿八品を結んだ名用體宗の樞要である妙法蓮華經の五字以外の余經はもちろん、法華經であつても、題目五字は正行に用（功德）と分別されております。これを諸先師は題目五字に薬、廿八品に効能書とし、病人が薬を服用せずに、効能書や処方箋ばかり読んでも、病を療治することは出来ないと譬えられます。妙楽の釈に妙楽大師の『法華文句記』で、「子父の法を弘む世界の益有り。」とは、本佛の所化である地涌の菩薩が本佛の要法を弘めることは世界悉檀（世間の道徳に則り佛法を伝える）の利益にかなうものと説示されます。如来神力品の結要付嘱の教相に従えば、子に地涌の菩薩、父に釈尊、世界に上行菩薩が出現する日本国、益に成仏、法に南無妙法蓮華經の要法。末法今時に則れば、父に日蓮大聖人、子に我々大聖人の弟子且那、世界に本化上行菩薩の応現。日蓮大聖人が出現された日本国、益に南無妙法蓮華經の五字七字を受持するに即身成仏、法に上行菩薩の応現。日蓮大聖人から直伝された御題目に限るといふ意になります。（続く）

本化垂迹天照太神祭

四月二十九日(月・祝日)、世間一般ではみどりの日、昭和の日とされていますが、当山では年中行事である本化垂迹天照太神祭が奉修されました。重須太神社殿前より歩まれ、鈴木春雄執事長の下、塔中僧侶らが垂迹堂へと昇堂し、午前十時より法味言上がなされました。



天照太神への法味言上



垂迹堂

は、日興上人が七二八年前に重須の地をひらかれた際に、建立なされた三堂と言われるお堂の一つです。焼失して永らく再建

鈴木執事長は挨拶で「コロナ禍で活動が大変厳しい年が続いておりましたが、練習を重ね、今年はこの様に大勢の皆様による大変力強い奉納太鼓を拝聴させて頂けた事、天照太神様、日興上人様も大変お喜びになられていらつしゃることでしょう。」と述べられました。

重須孝行太鼓保存会

は、日興上人が七二八年前に重須の地をひらかれた際に、建立なされた三堂と言われるお堂の一つです。焼失して永らく再建



が叶いませんでしたが、第四十七世貫首日幹猊下が昭和五十三年に落慶奉告がなされてより、それをご縁に重須孝行太鼓保存会を発足し、以来毎年、勇壮な祭典が行われる様になりました。

重須孝行太鼓保存会は、今年五十名を越える重須孝行太鼓保存会の面々による、奉納太鼓をご披露して頂きました。

重須婦人会総会

四月十二日に重須婦人会の総会を、十一時より方丈にて開催致しました。寺庭婦人会の皆様も御出席頂きました。

新役員のご紹介

会長 井出和子様
副会長

石川キヨエ様

堀内はるみ様

会 計 前嶋妙子様

顧問 古谷澄子様

古谷澄子様は、前会長として会の運営にご尽力頂き本山としても厚く御礼申し上げます。引き続き、顧問としてお力添え頂きます。

皆様には毎月二回の清掃奉仕を実施して頂き大変助かっております。本年度も宜しくお願い致します。

重須孝行太鼓総会

四月十九日に重須孝行太鼓保存会の総会を、十九時半より方丈にて開催致しました。約二十名の孝行太鼓の御父兄の方々にご出席頂き、年間行事の報告、子供達のサポート・夏季修養道場等について協議をして頂きました。コロナも下火となり、今年度は既に二十数件の演奏依頼が届いており、今後益々の活躍が期待されます。又、垂迹祭終了後には年に一度の懇親会を開いて、子供達も大変楽しんでいました。



懇親会で賑わう太鼓メンバー

興統法縁会 第五支部総会

四月十九日に興統法縁会 第五支部総会を十四時より方丈にて開催致しました。本年は理事の改選期の為、当支部より六名の理事の皆様が改めて選出されました。選出の結果は左記の通り。

- 上杉清文理事(再任)
- 鈴木春雄理事(再任)
- 林昌壽理事(再任)
- 小西唯昭理事(再任)
- 森久寿隆理事(再任)
- 渡邊瑞康理事(退任)
- 佐野湛要理事(新任)

渡邊瑞康理事は長年に渡り、法縁会の事務局及び庶務理事をお務め頂き、会の発展にご尽力頂きました。本山としても厚く御礼申し上げます。

また、佐野湛要幹事長が新たに理事として任命されました。



北山中学校講話

五月九日、北山中講話が北山中学校体育館と本門寺本堂にてそれぞれ行われました。

体育館では三年生四十名、本門寺本堂では一年生四十名に、それぞれ北友学習の時間が設けられました。

京都への修学旅行を控えた三年生に向けて、仏教伝来や寺院拝観の心得などを佐野布教伝道部長が説明されました。

一年生は本門寺の歴史、梨の木の縁起などを浦野部員から説明されました。生徒達は机に向かう勉強とはまた違った内容に耳を傾け、予定終了時刻を超えても盛んに手が上がっていました。



中学校体育館で仏像の印を真似する生徒達



本門寺本堂で、重須の歴史を学ぶ生徒達

新寂回向事務局より

御本堂におきまして、各御霊位の御回向を申し上げます。

- 養仙坊檀徒 故 石川 美子様
- 久城寺檀徒 故 榎林 輝徳様
- 久城寺檀徒 故 土屋 滋子様
- 久城寺檀徒 故 齋藤 延典様
- 宗川寺檀徒 故 榎山 美佐子様
- 宗川寺檀徒 故 榎山 ひろみ様
- 本光寺檀徒 故 宮澤 正文様
- 本光寺檀徒 故 渡井 篤様
- 本光寺檀徒 故 丸茂 正志様
- 本光寺檀徒 故 望月 花代様
- 蓮妙寺檀徒 故 高橋 常子様
- 久成寺檀徒 故 鈴木 保則様
- 東陽坊檀徒 故 望月 浩子様
- 西之坊檀徒 故 竹田 満雄様
- 西之坊檀徒 故 渡邊 秀昭様
- 正法寺檀徒 故 清水 裕様
- 養運坊檀徒 故 伊藤 伸恵様
- 養運坊檀徒 故 伊藤 のり子様
- 養運坊檀徒 故 戸塚 たかゑ様
- 西之坊檀徒 故 廣島 恭子様
- 本光寺檀徒 故 吉田 秀吉様
- 本光寺檀徒 故 遠藤 八恵子様
- 本光寺檀徒 故 植松 章八様
- 本光寺檀徒 故 鈴木 英男様
- 本光寺檀徒 故 有賀 有子様
- 本光寺檀徒 故 伊藤 博之様
- 本光寺檀徒 故 小野 光枝様
- 本光寺檀徒 故 戸塚 幸代様

四月末日迄 申込み・申請順
ご冥福をお祈り申し上げます

本門寺の主な予定

- 令和六年五月
- 五日 清家第七回忌法要
- 九日 北山中講話
- 十日 重須婦人会清掃奉仕
- 十四日 福岡妙照寺様団参
- 二十二日 蓮宗韓国寺院団参
- 二十四日 重須婦人会清掃奉仕
- 二十四日 参与会
- 二十四日 司判会・大世話人会
- 三十日 本間俊文先生勉強会

令和六年六月

- 四日 重須会 門中参拝
- 相模門中 上行寺様、蓮妙寺様
- 、常在寺様、本禅寺様
- 十四日 重須婦人会清掃奉仕
- 二十日 本間俊文先生勉強会
- 二十七日 興統法縁会宮崎大会
- 二十八日 重須婦人会清掃奉仕

丹精者御芳名

香華・その他 供養

- 市内北山 星谷とみ子様
- 諸堂・境内清掃・作業奉仕
- 本門寺内 重須婦人会様
- 本山塔中 寺庭婦人様
- 本門寺内 石川由緒家様
- 市内北山 望月 正見様
- 静岡市 紺文シルク様
- 謹んで御礼申し上げます